

令和3（2021）年度 資源評価調査報告書

種名	ハガツオ	対象水域	日本海・東シナ海
担当機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 水産資源研究センター、山口県水産センター、福岡県水産海洋技術センター、長崎県総合水産試験場、熊本県水産研究センター	協力機関名	

1. 調査の概要

山口県、福岡県、長崎県、熊本県が過去に遡ってまとめた主要港の年別漁獲量と月別水揚げ量をもとに、現在の資源の水準および動向を判断した。また本種の生物特性を把握するため、主に長崎県内においてハガツオの精密測定を実施し、耳石による年齢査定と成熟状態について確認した。

2. 漁業の概要

本種は曳縄、まき網、釣り、定置網などで漁獲されるが、漁業種別の漁獲量は整理されていない。また、漁獲量は一部の漁協もしくは市場に限られている。漁獲量は担当機関のなかでは長崎県が最も多く、次いで熊本県であった（図1）。漁獲量は2011年もしくは2012年から集計されており、2012年には759トンであったが、2016年にかけて徐々に減り、2017年以降は増えたものの増減が激しい。福岡県、長崎県、熊本県の月別の漁獲量をみると、2月から6月には漁獲量が少なく、秋から冬にかけて増えるようである（図2）。

3. 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：本種は福島県以南、東シナ海、太平洋の温・熱帯域に分布する。
- (2) 年齢・成長：本種の主要な分布域である東シナ海における漁獲サイズは尾叉長で400mm～600mmである（図3）。また、令和3年度に予備的に行われた耳石による年齢査定の結果では、1歳魚で約400mm、2歳魚で500mmに成長する。雌雄による成長差はない。
- (3) 成熟・産卵：令和3年度に測定された結果では、主産卵期は5・6月と考えられる。
- (4) 被捕食関係：魚食性である。

4. 資源状態

上述したとおり、山口県、福岡県、長崎県、熊本県では一部の漁協もしくは市場からの漁獲量しか集計できておらず、2012年以降にしか漁獲量が出そろっていない。したがって、資源の水準を判断するにはもう少し長く漁獲量を集計する必要がある。すべての県で漁獲量が集計されている期間のなかでは、2016年が最低の漁獲量であり、2021年はそれよ

りも多かった。資源動向は近年の漁獲量が大きく変動していることから、判断は難しいが横ばいと考えられる。

5. 資源回復などに関するコメント

資源回復のための取り組みは行われていない。生物特性や資源構造に不明な点が多く、さらなる情報収集が必要である。

引用文献

山田梅芳（2007）東シナ海・黄海の魚類誌、ハガツオ。 983-985.

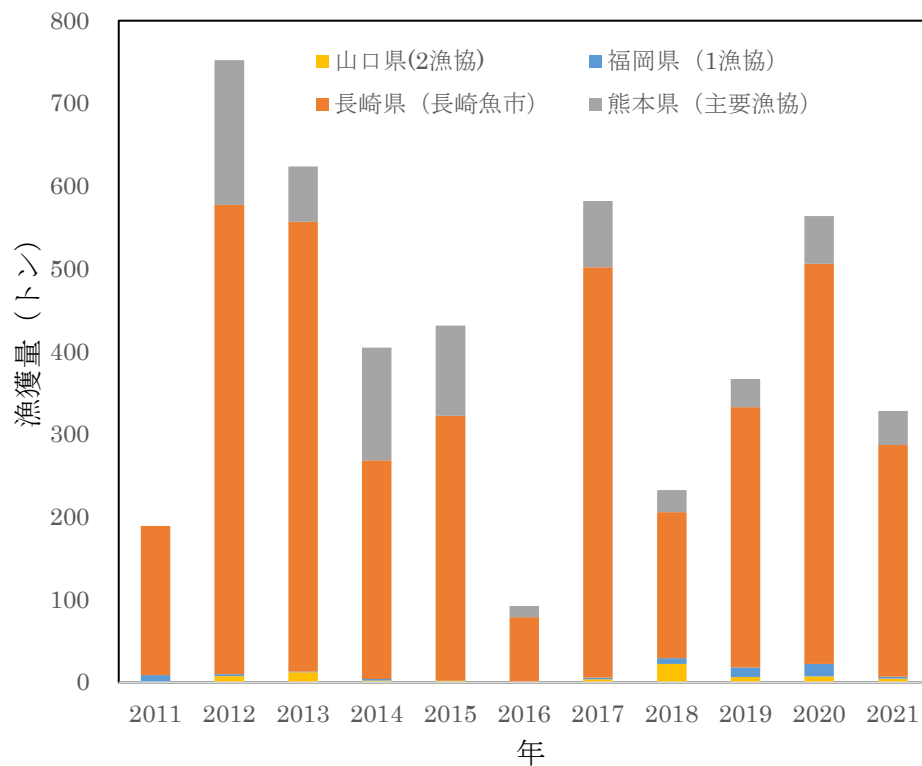


図1 山口県、福岡県、長崎県、熊本県における主要漁協・市場におけるハガツオの漁獲量（ただし、山口県と熊本県は2012年以降）

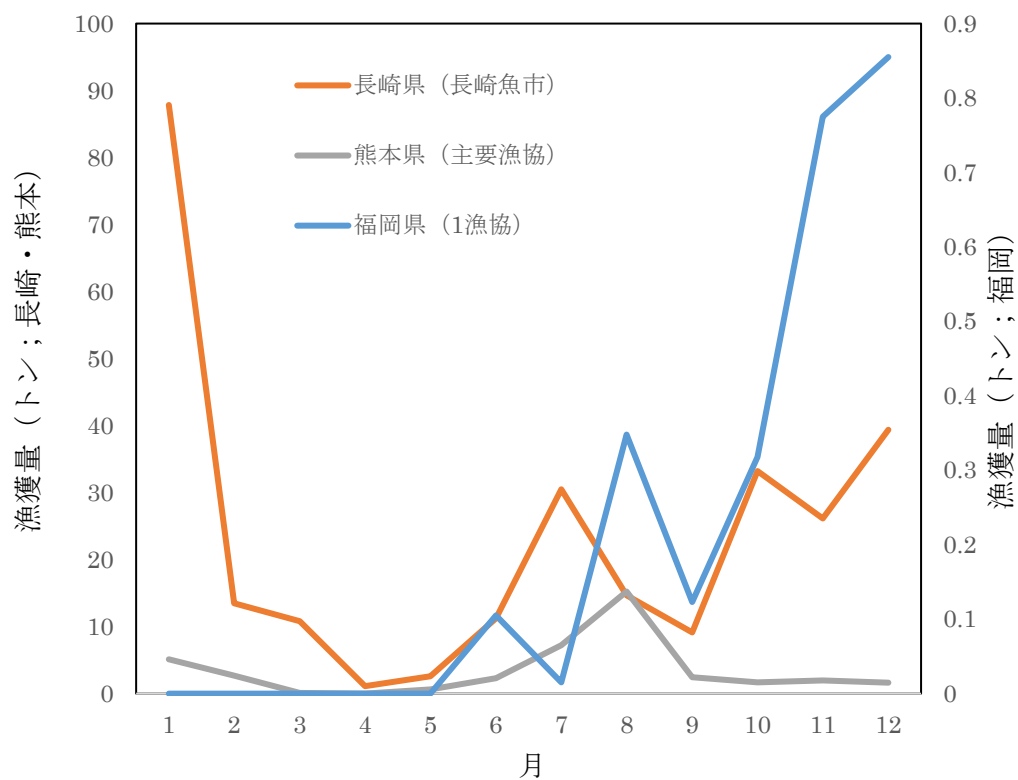


図2 福岡県、長崎県、熊本県における月別漁獲量 (2021年)

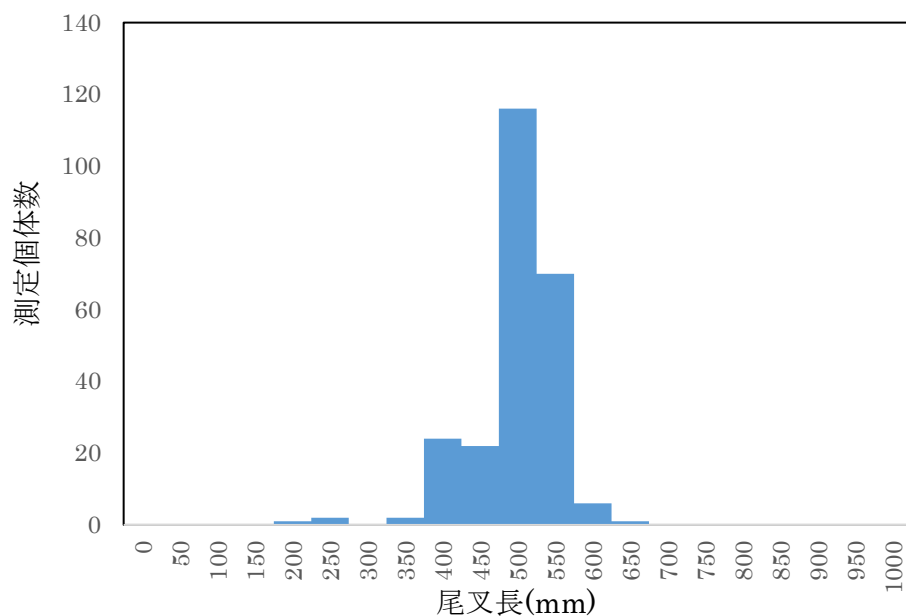


図3 令和3年度に測定されたハガツオの体長組成

表1 ハガツオの年別県別漁獲量（トン）

年	山口県 (2 漁協)	福岡県 (1 漁協)	長崎県 (長崎魚市)	熊本県 (主要漁協)
2011		8.63	180.49	
2012	7.52	2.34	567.33	175.02
2013	12.20	0.84	543.96	66.93
2014	2.13	2.04	264.45	135.99
2015	2.04	0.10	320.16	109.07
2016	0.17	0.33	78.35	13.58
2017	3.78	1.88	496.36	79.90
2018	22.22	7.06	176.42	26.98
2019	6.44	11.52	314.69	34.09
2020	7.18	15.30	483.65	57.73
2021	4.37	2.54	280.12	41.07